

## 山縣記念財団からのお知らせ

当財団は、1940年（昭和15年）6月3日、辰馬汽船（のちに新日本汽船、山下新日本汽船、ナビックスラインを経て商船三井となる）の社長であった山縣勝見によって、「財団法人 辰馬海事記念財団」として設立され、2020年に80周年の節目を迎えました。その後名称変更により、辰馬海事文化研究所、海事文化研究所そして1964年（昭和39年）「山縣記念財団」となりました。また、「新公益法人制度改革」の施策の中で、2012年4月1日からは、内閣府から認可を受け、「一般財団法人 山縣記念財団」として、わが国の海事交通文化の発展に貢献するために、次の3つの事業を柱として、活動しております。

1. 学術研究誌『海事交通研究』（年報）及び海事交通文化の研究及び普及・発展に資する出版物の刊行と関係先への送付
2. 海事交通文化の研究及び普及・発展に貢献された方々への「山縣勝見賞」（著作賞、論文賞、功労賞、特別賞）の授与
3. 海事交通文化の研究及び普及・発展に貢献する事業への助成・協力

つきましては、これら3つの事業について、2022年度分を公募することになりましたので、次ページ以降をご参照の上、応募をお待ちしております。

いずれにつきましても、申請書などの送付先、問合せ先は下記の通りです。  
（申請書のExcel／Wordフォームが必要な方は、メールにてご連絡下さい。）

**【申請書などの送付先、問合せ先】**

一般財団法人 山縣記念財団

〒104-0032 東京都中央区八丁堀 3-10-3 正和ビル 5F

TEL：03-3552-6310 FAX：03-3552-6311

E-mail: zaidan@yamagata.email.ne.jp

ホームページ：http://www.ymf.or.jp/

## 1. 『海事交通研究』第71集への掲載論文等募集のご案内

当財団は、『海事交通研究』を1965年（昭和40年）11月に創刊し、海運とその周辺分野に関する最新の研究成果を発表して参りました。

2022年12月発行予定の第71集につきましても、以下要領にて掲載論文等の募集を致しますので、奮ってご応募下さいますようご案内申し上げます。

尚、本件に関する最新情報については、当財団ホームページでご確認下さい。

### ・・・・・・・・募集要領・・・・・・・・

#### 募集論文について

1. 『海事交通研究』は海事社会、海事産業における現代的な課題とその解消への試みのみならず、時代に捉われない普遍的な事象の掘り起こしの他、あるべき将来を見据えた秀逸な論考を取り上げることにより、海事に関する諸活動、諸現象の意義を広く一般社会へ知らせる役割を担い続けています。2022年も同様の方針の下、本誌にふさわしい論考を自由テーマとして募集します。
2. 2021年を回顧すれば、感染症の蔓延と共に進む地球の温暖化に対してこれまでにない危機感を抱いた各国が一体となり、それらの克服、防止に図られるべき先への道筋が示された年でもありました。わが国をはじめ諸外国の海事社会や産業もまた、国際社会における重要な存在として様々な対応が求められているといえましょう。応募に際し、論考(提言を含む)のテーマとなり得る海事、海運、船舶運航に関わる喫緊の課題につき、ご参考までに幾つか列記します。
  - (1) SDGs（持続可能な開発目標）の推進と課題
  - (2) 「産官学」の連携の強化
  - (3) 期待される技術革新（AIの利用と展望等）
  - (4) 異常気象・海象、地球温暖化の影響と対策
  - (5) これからの通信手段の進展と高度化
  - (6) ポストコロナ時代のクルーズ
  - (7) 海上貿易や輸送における変化と海上保険の役割と課題
  - (8) 海事私法における課題と対応
3. 応募資格者：どなたでも応募出来ます。
4. 応募原稿：未発表のもので、原則日本語としますが、相談に応じます。共著も可。
5. 容量：A4版縦置き横書き（40字×40行）で最大12ページ（目次・図表・注等を含む）とします。

6. 応募・審査手順：

(1) 以下につき、ご了承の上、ご投稿をお願いします。

①二重投稿・剽窃・自己剽窃とみなされる論文等の投稿は不可。他誌/媒体にすでに掲載された文章を一定範囲で再掲される場合は必ずご相談ください。

②著書や新聞等の文献から引用した場合及び発想を転用した場合は、出典（著者名・タイトル・発行所名・発行年月等）を明記する。但し、ウェブサイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記する。

(2) 論文等執筆の申請をされる方は「年報掲載論文等執筆申請書」（以下「申請書」という）を2022年1月5日（水）～2月28日（月）の間に、メール・郵便（2月28日消印まで有効）又はFAXによりお送り下さい。（本誌巻末の「申請書」書式を切取線から切り取り、ご使用下さい。申請書のWordフォームがお入用の方はご連絡下さい。）

(3) 当財団の「年報掲載作品編集委員会」（以下「編集委員会」という）が提出された申請書を審査し、論文等の執筆を応諾するかどうかを3月末までにご連絡致します。

(4) 原稿提出締切日は2022年7月20日（水）23時59分までを財団着信時刻の締切として、メールに添付して応募することとします。

7. 提出論文の年報への掲載に際しては、査読（注）を経て、編集委員会での審議にて決定し、9月下旬頃までにお知らせします（論文以外の形式で執筆された作品は査読の対象外です）。発行は、12月上～中旬の予定です。査読を経た論文には、《研究論文（査読付き）》と明記します。

（注）査読は、研究論文として応募されたものを対象に、大学または大学に準ずる教育研究機関において教育研究の経験のある者、および民間企業等で実務経験のある者の中で、査読対象の論文の研究分野に精通している者によって行い、①新規性・独創性、②有用性、③信頼性・公平性・客観性、④首尾一貫性、課題達成度、具体的提案、⑤読みやすさを評価項目とします。

8. 原稿料：年報に掲載された論文等については当財団所定の料率にて原稿料をお支払いします。

9. 年報掲載論文等執筆申請書・論文等の提出先・問合せ先：本誌 p.118 をご覧下さい。

以 上

## 2. 「2022 年山縣勝見賞」 募集のご案内

当財団は、2008 年に設立者の名前を冠した「山縣勝見賞」を創設し、国民生活に重要な役割を果たしている海運を中心とする海事交通文化の研究及び普及・発展に貢献された方々を顕彰し、その研究成果を対象として表彰する制度を発足しましたが、この度も「2022 年山縣勝見賞」への応募を以下の通り受け付けます。

なお、本件に関する最新情報については、当財団ホームページでご確認下さい。

また、前回の「2021 年山縣勝見賞」につきましては、本誌 p.123 に掲載しておりますのでご覧下さい。

### ・・・・・・・・募集要領・・・・・・・・

1. 募集対象分野：海運、物流、港湾、造船、海上保険及びその周辺分野をテーマとする著作（共著も可）、論文ならびに業績
2. 募集開始日：2022 年 3 月 1 日（火）
3. 応募締切日：2022 年 4 月 30 日（土）（当日の消印有効）
4. 賞の種類及び対象：
  - ① 著作賞 海事関係の単著又は共著で、2019 年 1 月 1 日から 2021 年 12 月 31 日までの間に発表されたもの。
  - ② 論文賞 海事関係論文で、上記と同期間に発表されたもの。
  - ③ 功労賞 海事交通文化の発展に顕著な業績のあった個人。特にその業績の対象期間は問わない。
  - ④ 特別賞 上記三賞に匹敵する功績が認められる個人または法人ならびにその事業

なお、既に他の学会又は団体などから受賞している場合でも受賞の資格を有するものとします。
5. 賞金：各賞とも 20 万円
6. 応募手続：応募は、個人・団体の推薦または自薦によるものとします。

応募者は、当財団宛所定の推薦/申請書（本誌巻末の書式を切り取ってご使用下さい。申請書の Excel フォームが必要な方はご連絡下さい。）に推薦/申請理由書ならびに当該著書・論文コピーを 1 部添付のうえ提出して下さい。（著書は後日返却します。）  
推薦/申請書・著書/論文コピー郵送先は、本誌 p.118 をご覧下さい。
7. 受賞者の発表：受賞者の氏名等は、2022 年 6 月に当財団のホームページ、その他海事関連のメディアを通じて発表します。

なお、受賞者への贈呈式は 2022 年 7 月 18 日(月・祝)の「海の日」の前後に行います。

以上

### 3. 2022 年度補助金助成申請のご案内

当財団は、海事交通文化の研究及び普及・発展に貢献する事業への支援・助成活動を行って参りましたが、2022 年度につきましても以下の通り募集致しますので、ご応募下さい。

なお、本件に関する最新情報については、当財団ホームページでご確認下さい。

また、2021 年度の補助金助成先につきましては、本誌 p.125 に掲載しております。

#### ・・・・・・・・募集要領・・・・・・・・

1. 募集対象分野：海事交通文化の調査研究、その他海事の発展に貢献し、または貢献しようとする事業への支援・助成
2. 募集開始日：2022 年 1 月 5 日（水）
3. 応募締切日：2022 年 2 月 28 日（月）（当日の消印有効）
4. 申請のための条件：
  - (1) 2022 年 4 月から 2023 年 3 月までに実施する事業であること。
  - (2) 収益を目的とする事業は対象とせず、海事交通文化の振興または調査研究に関連する事業であること。
  - (3) 2022 年 3 月までに実施したことのある事業の場合は、その実績が一定の評価を得ていること。また、これから実施しようとする事業の場合は、当該事業を実施するための実態的な人材・知見が整い、事業目的が明確に示されていること。
  - (4) 事業の経費のうち、当該事業の実施のために直接必要な経費（以下、直接経費という）を対象とする。一方、当該事業を含む申請者の活動全般に包括的に必要な経費は対象外とする。例えば、機器・図書購入費、人件費、学会等参加費、交通費、宿泊費等は、直接経費と判断される場合のみ対象とする。
  - (5) 補助金を 2023 年 3 月までに使い切れないことが判明した場合は、申請以外の用途に流用することなく、2023 年 3 月までに当財団に差額を返金すること。
  - (6) 申請者の所属する大学等が当該補助金に係る会計処理を担当し、その事務経費を補助金の一部から充当したいとの申し出があるときは協議に応じる。
  - (7) 本補助金を利用して活動した後、本補助金の用途に関する事後報告を、遅くとも 2023 年 4 月までに行うこと。
  - (8) 本事業の成果について対外発表する場合は、当財団の補助金による事業である旨の記載を行うこと。
5. 申請手続：補助金助成申請書（またはこれに代え、募金趣意書等）の提出による。
6. 審査結果の発表：助成審査委員会（2022 年 3 月上旬開催予定）にて審査し、理事会（3 月中～下旬開催予定）に答申。結果は 4 月上旬までに申請者宛連絡する。
7. 補助金の振込：申請者の請求書又は寄附金受入通知（金額、目的、振込口座、名義、振込希望年月日を記載）に対して行う。

以上

## 4. 「2021 年山縣勝見賞」の結果ご報告

「2021 年山縣勝見賞」の受賞者を次の通り決定しました。

受賞者略歴、及び授賞理由につきましては以下の通りです。(敬称略)

(受賞者略歴は受賞時点のものです。)

なお、昨 2020 年に続き、今年も新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、例年行っていた贈呈式を取り止めました。

### 記

#### 《著作賞》

該当者なし

#### 《論文賞》

小林 充 (こばやし みつる) 著

「内航船ウェザールーティングの開発と改善に関する研究」

(東京海洋大学 博士学位授与論文 2020 年 3 月認定 工学博士)

受賞者略歴

1969 年生まれ。早稲田大学大学院理工学研究科電気工学専攻修士課程修了。2002 年独立行政法人海上技術安全研究所(現・国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所)入所。以降、人工知能、最適化技術を航海支援の分野に適用する研究に従事。内航船向け航海計画最適化の研究を(一財)日本気象協会、東京海洋大学と共同で実施し、同協会より「ECoRO(エコロ)」として実用化。2020 年東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科応用環境システム学専攻博士後期課程修了、博士(工学)。同年より国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 海上技術安全研究所 知識システム研究グループ長。発表論文として「AIS による黒潮沿岸域における船舶偏流の推定」(『日本船舶海洋工学会論文集』第 28 巻)など。

授賞理由

外航で普及しているウェザールーティングを内航海運のニーズと特性に適合するよう構成し、大学、気象情報提供会社、航海電子機器メーカーと連携して乗組員が操作できる船載のウェザールーティングシステムの開発および気象情報提供・最適航路計算サービスを創設することで、内航船の競争力強化と CO<sub>2</sub> 排出量削減へ貢献、内航船へのウェザールーティングの普及および性能向上に寄与するものと認められる。

#### 《功労賞》

該当者なし

《特別賞》

北前船日本遺産推進協議会（きたまえぶねにほんいさんすいしんきょうぎかい）

授賞理由

2017年、日本遺産に北前船寄港地・船主集落11市町（北海道函館市、松前町、青森県鯉ヶ沢町、深浦町、秋田県秋田市、山形県酒田市、新潟県新潟市、長岡市、石川県加賀市、福井県敦賀市、南越前町）が認定されたことを受け、同年5月日本遺産魅力発信推進事業を推進するために発足。各市町の魅力ある有形・無形の文化財群の知名度を更に高め、観光客誘致や交流人口の拡大などにより地域の活性化を図ることを目的として活動しており、現在、16道府県48市町にまで拡大。これらの活動を通じて、わが国の海事交通文化の発展に寄与した功績に対して表彰する。

木村 博一（きむら ひろかず）（広島大学教授）及び村上 忠君（むらかみ ただきみ）（広島大学附属三原小学校契約教諭）

受賞者略歴

木村 博一

1958年生まれ。広島大学大学院教育学研究科博士課程後期修了。愛知教育大学助手、助教授、広島大学学校教育学部助教授、広島大学大学院教育学研究科教授を経て、現在広島大学大学院人間社会科学研究科（教育学系）教授。博士（教育学）。専門分野は社会科教育学。著書に『日本社会科の成立理念とカリキュラム構造』風間書房2006年、『「わかる」社会科授業をどう創るか—個性ある授業デザイン—』（編著）明治図書2019年、『板書&写真でよくわかる365日の全授業 小学校社会科』明治図書2021年 他多数。所属学会は全国社会科教育学会（会長）、日本社会科教育学会（評議員）、日本教科教育学会（常任理事）、他。

村上 忠君

1956年生まれ。神戸学院大学法学部法律学科卒業。因島市立土生小学校・同田熊小学校・広島大学附属三原小学校教諭、府中市立北小学校教頭、尾道市立原田小学校教諭を経て現在広島大学附属三原小学校契約教諭。研究教科は社会科。著書に木村博一編著『板書&写真でよくわかる365日の全授業 小学校社会科』明治図書2021年、論文に「国際的資質を育てる小学校社会科歴史学習～「ノルマントン号事件」と「エルトゥール号の遭難」を事例として～」2010年、等。所属学会は全国社会科教育学会。

授賞理由

木村氏は、広島大学大学院教育学研究科教授として、小学校の社会科教育で「海事教育」の研究に注力するとともに、広く人材育成に努めている。村上氏は、広島大学附属三原小学校ほか複数の小学校において、「海から見た社会科」を研究テーマとして、海事教育などの教材開発を木村氏と共に行い、その授業においての実践を通して、更なる改善を図るとともに、人材育成に努めている。これらの活動を通じて、広くわが国の海事交通文化の発展に貢献した功績に対して表彰する。

以上

## 5. 2021 年度補助金助成のご報告

2021 年度当財団補助金の助成先と助成に係わる事業名を公表致します。

なお、諸般の事情から金額の公表は差し控えます。ご了承のほどお願いします。(敬称略)

### ・公益社団法人日本海洋少年団連盟

#### 「褒状山縣賞」授与事業

「特に優秀な団員又は卒団後も引続き団員の指導等に当たっている指導者の顕彰、知識の更なる向上とモチベーションの昂揚を図り、人材の確保と海洋少年団活動の更なる活力向上を図ること」を目的に、同連盟第3代会長で、山縣記念財団創設者でもある山縣勝見の名を冠して 2010 年度創設され、授与式には当財団理事長が出席しています。

#### 「我ら海の子展」事業

1973 年以来毎年開催されている「船、海や船で働く人、海の環境保全や景色など」をテーマにした児童絵画コンクールで、未就学児・小学生に加え、2016 年度からは中学生も対象に加わり、2021 年度は全国の中学生、小学生、幼児から「私の海」をテーマにした絵画 3,953 点の応募がありました。そのうち、国土交通大臣賞 3 作品（中学生の部、小学生高学年、低学年以下の部）はじめ、主催者、後援者、個人審査員による特別賞、金賞、銀賞の合計 56 作品が決まりました。当財団からは「山縣記念財団理事長賞」を贈呈しています。なお、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、授賞式については残念ながら中止となりました。

#### カヌー等海上資機材整備事業

カヌーや SUP 等の海上資機材は、海洋少年団の活動の幅を低年齢層や地域の少年少女等に広げるのに有効との趣旨に賛同し、それらインフラの整備を支援しています。

### ・東京海洋大学海事普及会（海事普及のための学校等）巡回活動事業

#### 「海と船の教室」

目的：下記の 3 つを目指す長期的なプロジェクト

- ① 暮らしを支える海事産業について関心を持ってもらう
- ② 日本が海洋国であることを理解してもらう
- ③ 将来の進路選択や職業選択に海事産業を加えてもらう

### ・NPO 法人 故郷の海を愛する会 海から始まる物語 IN 2021

主に三重県内に在住する小中学生に対して、故郷の海を愛する心を育て、素晴らしい日本と日本の海を認識し『希望と憧れ』の気持ちを醸成させるために、体験航海、港や造船所、火力発電所などの見学会、講演会などを実施。

### ・瀬田広明（東海大学海洋学部教授）

航海計画立案時における紙海図と ECDIS の功罪検証

- ・ 出口晶子（甲南大学文学部教授）  
本州・四国の本土近接離島を中心とした連絡船の海事交通文化の調査研究への補助
  
- ・ 若土正史（神戸大学海事科学部非常勤講師）  
中世スペインの手書きの判決及びその関連史料の翻訳費用の補助
  
- ・ 千葉 元（大島商船高等専門学校商船学科教授）  
船舶関連の海洋汚染防止の法体制と現場の実情に関する調査
  
- ・ 木原知己（早稲田大学大学院法学研究科非常勤講師）  
『躍動する海－さまざまに織りなす「海」の物語』出版費用の補助

以 上

## 6. 当財団設立 80 周年記念出版『日本の海のレジェンドたち』が 住田海事奨励賞を受賞しました

昨 2020 年に設立 80 周年を迎えた当財団の記念出版『日本の海のレジェンドたち』（山縣記念財団 80 周年記念出版編集委員会 編）が第 53 回住田海事奨励賞を受賞しました。

海事・海運の専門家や関係者、総勢 21 名の執筆陣による、海を舞台に活躍、また海事産業の発展に寄与したレジェンドともいえるべき偉人 20 余名の評伝集となっています。

授賞式は 11 月 12 日に行われ、郷古理事長が代表して出席し、賞状と賞金をいただきました。

### 本書目次

#### 第一部 助走～世界に冠たる内航海運を支えたレジェンドたち～

河村瑞賢

大黒屋光太夫

高田屋嘉兵衛

銭屋五兵衛

#### 第二部 ホップ～海外と関わったレジェンドたち～

勝海舟

小栗上野介忠順

ジョン万次郎

坂本龍馬

漂流譚のなかのレジェンドたち

#### 第三部 ステップ～海事産業の近代化を担ったレジェンドたち～

岩崎弥太郎

荘田平五郎

浅野総一郎

郡寛四郎

松方幸次郎

#### 第四部 ジャンプ～海事産業の発展に寄与したレジェンドたち～

山下亀三郎

各務鎌吉

勝田銀次郎

村田省蔵

内田信也

#### 第五部 未来へ～海事産業を新たなステージへと導いたレジェンドたち～

森勝衛

和辻春樹

住田正一

有吉義弥

山縣勝見

## 書籍データ

発行年月	2021年3月
判型	A5
ページ数	288ページ
定価	2,750円(税込)
ISBNコード	978-4-303-63442-1

本書の購入は、全国の書店（在庫がなくても注文で取り寄せ可能）やオンライン書店経由でお願いします。本書に関するお問い合わせは下記までお願いします。

海文堂出版(株) 編集部 臣永（とみなが）氏

TEL 03-3815-3291（代）

以 上

2022年 月 日

一般財団法人 山縣記念財団

理事長 郷古 達也 殿

## 年報掲載論文等執筆申請書

下記の内容にて『海事交通研究』（年報）2022年第71集に寄稿したく、申請致します。

記

1. 執筆者氏名

2. 所属

3. 連絡先

住所: 〒 -

TEL: ( ) -

FAX: ( ) -

E-mail: @

4. 執筆希望論題

「 」

5. 執筆の趣旨・概要（300字～500字程度）

以 上



# 山縣勝見賞推薦/申請書

(推薦/申請年月日) 2022年 月 日

一般財団法人 山縣記念財団  
理事長 郷古 達也 殿

賞の種類		①著作賞 ②論文賞 ③功労賞 ④特別賞 (該当分に○をつけて下さい。)		
受賞対象内容	a. 著作(書籍)又は論文名			
	b. 論文賞の場合の種類別	学位取得論文(博士/修士) / 左記以外(掲載誌: )		
	c. 発行者 (学位論文の場合は大学名)		d. 発行/発表年月	年 月
	(フリガナ)		f-1 勤務先(役職)又は職業その他(・連絡先)	
	e-1 氏名 (著作・論文の場合、著者)			
	(フリガナ)		f-2 勤務先(役職)又は職業その他(・連絡先)	
	e-2 氏名 (著作で、共著者がいる場合)			
	(フリガナ)		f-3 勤務先(役職)又は職業その他(・連絡先)	
	e-3 氏名 (著作で、共著者がいる場合)			
	推薦/申請理由	(別紙又は裏面に記載してください。)		

記載箇所: ①はb以外全て、②は全て、③はe,fのみ、④はe,fに加え対象としたい事項をaに記載して下さい。なお、本件についての今後の連絡先を上記e-1~3の方とする場合はその方の連絡先(メールアドレスなど)を併せてご記入ください。

- 添付物: 1. 推薦/申請理由書  
2. (著作賞の場合)  
対象書籍 ( 返却希望 寄贈可 いずれかに✓を入れてください)  
3. (論文賞の場合) 1. 学位論文の場合は本文・要旨・審査結果報告 2. その他の論文の場合は本文または掲載サイトのURLをお知らせください

上記の通り、「山縣勝見賞」に推薦/申請します。

(※推薦/申請(=自薦)のどちらかに○印を付けて下さい。)

氏名 (団体の場合は、団体名・役職・個人名)

住所 〒 -

電話番号 ( ) -

メールアドレス

@

勤務先(役職)または職業

以上



2022年 月 日

一般財団法人 山縣記念財団

理事長 郷古 達也 殿

(申請者)

住所

氏名 (団体の場合は団体名と代表者名)

## 補助金助成申請書

下記の通り、海事交通文化の調査研究、その他海事の発展に貢献し、または貢献しようとする事業への支援・助成を申請致します。

### 記

1. 補助金助成を申請する事業名
2. 補助金の申請額 円
3. 補助金の必要時期（当財団よりの振込希望時期）： 年 月
4. 事業の目的・申請理由（出来るだけ詳細に記述して下さい。）

